

港南区防災ガイド

中学生編

保存版

地震の場合

地震はある日突然発生します。平成30年に公表された、横浜市で今後30年の間に震度6弱以上の地震が起きる確率は、82%といわれています^{※1}。また、港南区では地震による家屋の全半壊は約7,800棟、火災による焼失は約1,000棟と想定されています^{※2}。

家にいる時や、外出中に大地震が起きたら…、いろいろな場合を考えて、いつでも落ち着いて行動できるように防災・減災について考えてみましょう。

※1…全国地震予測地図2018年版より

※2…横浜市地震被害想定より(元禄型地震 港南区最大震度6強)



平成28年 熊本地震による被害(熊本県内)

ケース1 家にいるときに大地震が起きたら？

1 机やテーブルの下に入ったり、座布団や枕などで頭を守る。
(その場にあった身の安全)



2 揺れがおさまったら、火を消し、ガスの元栓を閉め、ブレーカーを落とす。
(すばやく火の始末)



3 近所にも声を掛け **いっとき避難場所**※
で安否を報告する。
(隣近所の助け合い)



火災を防ごう

阪神・淡路大震災では停電から電気が復旧した時、電気製品が再び作動し、それが火元となって起こる火災(通電火災)が多く発生しました。

この通電火災を防ぐためには**ブレーカーを落とすことが有効**で、大きな地震が発生した時に自動的にブレーカーを落とす「**感震ブレーカー**」を設置することも効果的です。

※いっとき避難場所

地震発生後にお互いの安否や被災状況などの情報をいったん集める場所です。場所や仕組みは自治会・町内会単位で決められていて、上のイラストのような看板を設置しているところもあります。

大規模な火災が多発し、火が燃え広がっている場合

広域避難場所へ一時的に避難します

【広域避難場所】大規模な火災による熱や煙から生命・身体を守るために一時的に避難する場所です。



自宅に被害があって戻れない場合

地域防災拠点へ避難し保護者を待ちます

【地域防災拠点】自宅で生活できない人が避難生活を送ったり、物資や情報が集まる場所になります。(詳しくは3ページを参照)

お願い

「避難」とは、「難」を「避ける」ことです。地域防災拠点の避難スペースには限りがあることや、感染症対策として3密を避けるためにも、安全が確保される場合は、自宅や親戚・知人宅で「避難」することも検討しておきましょう。

自宅に被害がない場合

自宅に戻ります

余裕があれば地域でお手伝いをしたり、困っている人を助けましょう。

この他に地域防災拠点での避難生活が困難な高齢者や障害のある方などのために必要に応じて開設される「**福祉避難所**」があります。